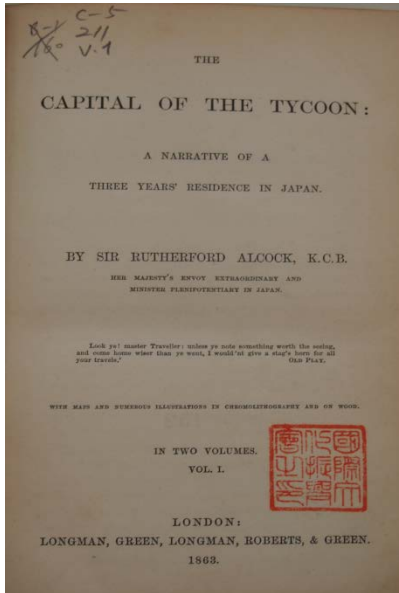




Sir Rutherford Alcock KCB
The capital of the Tycoon:
a narrative of a three years' residence in Japan
London, 1863 2 vols.
ラザフォード・オールコック卿 『大君の都:幕末日本滞在記』

ラザフォード・オールコック卿 (Sir Rutherford Alcock KCB, 1809-1897) は初代駐日英国公使。医学を学び軍医となりポルトガルに赴任するが、その後外交官に転じ、中国の領事を経て1859年に来日し英国公使となった。1862年に一時英国に帰国、2年後再度日本に赴任する。1864年、英・米・仏・蘭4国連合艦隊の下関攻撃の処理が原因で、イギリス政府により本国に召還されるが、1865年から1871年まで清国（中国）の公使として北京に赴任した。

本書は最初の3年間におよぶ日本滞在の記録をまとめたもの。日本の社会や文化、人々の生活について細かい観察がなされていて、日本を知るための貴重な文献として高い評価を得ている。またオールコック卿は画才にも恵まれ、本書の中の挿絵の多くは彼自身によって描かれている。外国人として初めて富士山を登頂した人物としても知られており、そのときの様子も挿図とともに詳細に記されている。タイトルにあるTycoonとは徳川将軍のこと。